

神戸市立博物館 特別展  
神戸の文化財Ⅲ ～今伝えたい、私たちの宝・街・心・技～  
2023年7月22日(土)～9月10日(日)



神戸市立博物館  
学芸員 三好 俊



神戸市指定有形文化財  
持国天立像 (四天王立像のうち)  
鎌倉時代 (13世紀) 太山寺蔵

神戸市立博物館には、『国際文化交流、東西文化の接触と変容』というテーマにもとづき、神戸の歴史や文化にかかる文化財を次世代に継承するという使命があります。開館以来、神戸市文化財課と協同し、市内の指定文化財を中心に保護と継承に努め、成果を昭和 58 (1983) 年の「神戸の文化財」、平成 19 (2007) 年の「神戸の文化財Ⅱ」として発信してきました。

この間、神戸市の文化財保護行政も変化していきました。神戸市では、「神戸市文化財の保護及び文化財等を取り巻く文化環境の保全に関する条例」(平成9年施行)のもと、毎年文化財指定、登録、認定を重ね、近年新たに「神戸歴史遺産」の制度も設け、文化財の保護および活用を進めています。本展では、後の時代への文化財の継承を目指し、その魅力に加え、保護への取り組みや意義について展観します。

現在、文化財をめぐる状況は、目まぐるしく変化しています。新型コロナウイルス感染症による行動制限の一方で、人々が身近な地域の歴史や文化に関心を持つ機会が増えました。また、博物館法改正により、資料のデジタル・アーカイブ化が謳われ、人々がより手軽に文化財を目にするようになりました。このような変化が訪れたことで、私たちは「文化財を継承していくことに何の意義があるのか」「博物館とは何のための施設か」について問い直す段階にあるのかもしれません。

継承された文化財の数々がかけがえのないものであるという事実は、どのような時代の変化が訪れようと変わることはないでしょう。本展では、「神戸の文化財Ⅱ」以後新たに指定された文化財を中心に展示します。「私たちにとって文化財とは」という視点に立ち、「宝」「街」「心」「技」という4つのキーワードをもとに文化財を取り上げ、令和の今こそ伝えたい、その魅力に迫ります。



重要文化財 南蛮屏風 (右隻) 狩野内膳筆 桃山時代 (16世紀末～17世紀初期)  
神戸市立博物館蔵 (池長孟コレクション)

※この特別展はみなと銀行文化振興財団が助成しています。